

CD-ROM に収録した問題は、問題番号のすぐ下に CD マークを入れてあります。
CD-ROM には 180 問を収録しました。

□□ 3



敗血症で認められないのはどれか。

- A 乏尿
- B 間欠熱
- C 血圧低下
- D 出血傾向
- E 呼吸不全

質の高いオリジナル新作問題を多数収録。
必要な知識を最小限に絞り込んだ解説です。
医師国試の基礎知識の整理にも最適です。

□ 解法ガイド

菌血症とは血液中に菌が存在する状態をいい、敗血症とは血液中に細菌が増殖することにより重篤な症状を示す状態のことで、肺・肝・腎障害などを認める。敗血症では、TNF- α などの炎症性サイトカインにより、ARDS (急性呼吸促進症候群) による呼吸不全やショックによる腎不全など、さまざまな病態を呈する。また、グラム陰性桿菌の菌体内毒素で、敗血症性ショックや DIC を認めることもある。

□ 選択肢考察

- A 敗血症ではショックなどで腎血流量が低下したり、急性尿細管壊死で急性腎不全となり、乏尿を認めることも多い。(○)
- B 間欠熱は、1日の体温差が1°C以上の変化をとり、37°C以下にまで下がるものをいう。マラリアなどで認められる。稽留熱は1日の体温差が1°C以内で、38°C以上の高熱が持続するもので、腸チフス、ツツガムシ病などで認める。弛張熱は1日の体温差が1°C以上の変化をとるが、37°C以下にまでは下らないものを指す。敗血症では弛張熱を認めることが多い。(×)

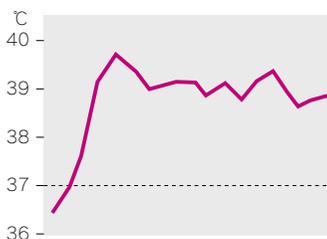
間欠熱

日差 1°C 以上、平熱のこともある



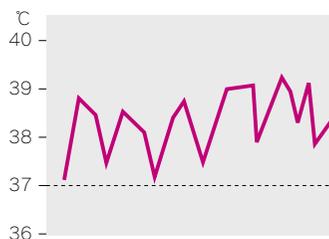
稽留熱

日差 1°C 以内、持続する高熱



弛張熱

日差 1°C 以上、平熱にならない



- C 敗血症では菌体内毒素によるショックで血圧低下を認めるが、初期には warm shock として末梢血流が増加することもある。(○)
- D グラム陰性桿菌の菌体内毒素によって DIC を合併して出血傾向を認めることも多い。(○)
- E 炎症性サイトカインにより、血管透過性が亢進して、ARDS による呼吸不全を認めることがある。(○)

解答：B